

張り子と子ども2

-山本辰典の作品とともに-

令和4年度浜松市創造都市推進事業補助金採択事業「レポート浜松雑纂」

開催日 2023/2/11(土)~13(日) 11:00~18:00

場所 **クリエート浜松** ギャラリー34 **入場無料**
〒430-0916 浜松市中区早馬町2番地の1



この度、令和4年度浜松市創造都市推進事業補助金採択事業「レポート 浜松雑纂」における成果発表展覧会『張り子と子ども2』を開催いたします。

「レポート 浜松雑纂」の事業では、アーティスト・山本辰典が浜松市内の小学校にて「張り子」を教材とした授業実践を行ってきました。本展では、子どもたちの授業作品や授業の様子の紹介、それから、小学校教諭や保育士、幼稚園教諭を目指す大学生が保育・教育の現場で張り子の実践ができるように簡単な張り子制作をした際の作品なども展示します。それとともに、本年度山本が紙を用いて制作した作品の展示も行います。

浜松には、150年近くの伝統を持つ「浜松張り子」という郷土玩具があります。また、静岡県内には、かつて「静岡張り子」「清水張り子」などの張り子も存在しました。けれども、現在はどちらも作り手がおらず廃業してしまっています。今も制作者がいらっしゃる浜松張り子は、全国の郷土玩具愛好家には広く知られていますが、浜松市に住む人々にはあまり知られていません。こうしたことから本事業では、学校教育現場にこだわり、張り子を教材とした授業実践を行ってきました。

子どもたちのお面の張り子、山本の作品を通して浜松の未来を担う子どもたちへの教育のあり方や役割、重要性までも改めて考える機会となれば幸いです。



Tatsunori Yamamoto
山本 辰典

1987年愛知県幸田町生まれ。2014年広島市立大学 芸術学 研究科 博士前期課程 彫刻専攻 修了。現在、愛知学泉短期大学 専任講師。土地の歴史や風土を調査し、積み木や砂遊び、電車ごっこなどの子どもの造形遊びをヒントに立体、映像、インスタレーションなどの表現で作品を展開する。それらはまるで記憶をとどめておく装置のようである。主な個展に『忘却の遊戯場』(2018/蒲郡市博物館)、『浜松雑纂』(2019/浜松市鶴江アートセンター)などがある。また、平成31年度浜松市創造都市推進事業補助金補助事業『改訂版 浜松雑纂』などアートエデュケーターとしての活動も積極的にしている。

写真: 右上から下へ順に①張り子のお面の原型となった粘土をとりぞく「脱型」の作業をする小学生の様子。②思い思いに「着彩」する様子。③自分の作品を発表する「鑑賞」の様子。④ゴム風船へ新聞紙を貼り重ねる大学生の様子。⑤新聞紙の上から和紙を貼り重ねる様子。

